

# 保全作業感謝のメール

水源林保全作業について、一般の方から感謝のメールが届いたそうです。内容は奥多摩の山についてですが、同じ保全作業ということで、情報提供していただいたのでご紹介します。

『私は奥多摩の山城をこよなく愛し、機会を見付けては山中に足を運ぶ者です。奥多摩深部は、美しい自然林と清らかな沢の流れが大変魅力的です。しかし、急な坂であったり、斜面が崩れていたり、危険な箇所に行き当たると、絶対落ちないようにと緊張します。ですが、唐谷谷林道入口周辺では、整備作業が実施されていました。深い長沢谷へ降りる歩道は危ない箇所でしたが、安全に歩けるように改良されつつあり、大きな安心を感じ、このような奥地で力仕事に従事される業者さんのご苦勞を思いました。その他では、天祖山。滑落事故が過去複数起きている箇所です。久しぶりに行ったところ、やはり歩道整備されており、石積みもされて、水平な足場が確保されていたことに驚きました。これなら安全に通ることができます。

都に納める税金をこのようなことに使っていただき嬉しいです。調査・研究を通して計画し、努力されている水道局職員の皆様、作業にあたる業者の皆様、都知事に感謝いたします。

台風の影響で、崩落が多く、また作業をしたいと思います。大きな感謝とともに、皆様の安全をお祈り申し上げます』一部省略。

一般の方からのちょっとした気遣い、言葉がどれだけ私達の励みになるか。夏は汗水たらし、虫に追われ、冬は凍える寒さを我慢し、危険と隣り合わせの作業をしている中、自分達の仕事をちゃんと見てくれていると思うと、やって良かったと間違いなく感じることでしょう。作業する側も感謝しなくてははいけないと思います。

# 依田林業新聞

発行所

(有) 依田林業  
塩山事務所  
総務部

# VR講習で危険疑似体験

林業労災を防ぐ為の新しい講習会を行っている、静岡新聞の記事をご紹介します。

『林業の課題になっている労働災害を減らそうと、県が強化している。目玉は仮想現実（VR）技術を活用した講習会。伐採作業の危険な事例を疑似体験してもらい、安全意識の向上を図る。「林業は危険」というイメージを払拭（ふっしょく）して担い手確保に繋げる狙いもある。

チェーンソーで切った木が突然、目の前に…。ゴーグルをかけ、刃のないチェーンソーを持った参加者が疑似体験をした。実際に起きた労災事故を再現したVRシュミレーターを使用。参加者からは「良い経験になった」「事前に危険を予測して安全に作業したい」などの声が上がった。

足場の悪い山の中で重量のある木を取り扱う林業の労災発生率は全産業の10倍以上と突出して高い。業界からは、「若者が林業を敬遠する一因になっている」との指摘がある。

経験や勘に頼る部分が多いとされるが、VR講習会では作業現場に潜む危険を効果的に学ぶことができ、経験が浅い人や外国人労働者への活用も期待される。林業全体で労災を減らし、新規参入しやすい労働環境作りを整えていかないといけない。

最高の教科書は、現場です。  
今月の一言

## 【豊かな森】を次世代に残したい！

美しい自然を守りながら、地域コミュニティを活性化させることができる。そんな夢のような未来を現実にする力が、林業にはあります。森林や林業保全は、地球環境と切っても切り離せなく、世界をより良く変えるための、「大きな歯車」という位置に林業はあるのです。

